

2021年度 学校評価票(総括案)

Ⅰ. めざす学校像(ミッションステートメント「建学の精神」)(長期的目標)					
本学の建学の精神は、キリスト教精神である「自由と愛」です自由には他者への愛と責任がともないます「自由」とは一人ひとりの人格と主体性を尊重すること「愛」とは互いに仕え合いながら他者と共に生きることですこの自由と愛の精神は、単にキリスト教の立場だけでなく、全ての人間が一致する普遍的な理念であり、人類共通の目標です人間のそのような可能性を開花させながら、高い理想を目指してチャレンジしつづけていくこと、それこそが桃山学院の一世紀を超える伝統が目指そうとする「キリスト教精神であり、「世界の市民」への道なのです。					
Ⅱ. 最重点目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
1. 建学の精神を日常にする	本校のキリスト教精神に基づく教育方針が生徒に十分理解されるよう努める	教員自ら毎日の礼拝を大切にし、その姿勢を生徒に示していく	学校評価の項目2で肯定的意見9割を指標とする	○	来年度も今年度同様の高評価を目指す
2. 大学合格実績の向上	大学入学共通テストに対応できるよう各教科、各コース、進路指導部が連携して綿密な進路指導を行う	共通テスト・難関大学対策講習を実施するまた、京大を目指すコース設置も検討していく	国立現役合格者3割超を指標とし、現役合格者京大10人、阪大20人を目指す難関私大は5割超を指標とし、6割を目指す	△	昨年ほどの結果は出ていないが現役で東大合格者が出るなど例年並みの結果であった
3. いのちの教育のさらなる推進	生命の尊さ、かけがえのなさと共に、人知を超える「いのち」の神秘を知る心を育てる	いのちに関連させたプログラムを実行する	生徒・保護者・教職員自身の実感を伴うものとなるよう学校評価アンケートでの評価を一つの指標とする	△	コロナの影響もあり実施できなかった行事もあった
Ⅲ. 中期的目標(3年が目安)	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
1. キリスト教精神をたいせつにする	キリスト教精神への理解と共感の幅を広げるまたキリスト教教育・行事等を通じて、他者と自分自身を大切にできる心や寛容の心を育む	①朝の礼拝を大切にすること ②祈りについての理解を深める ③キリスト教行事への理解をより深める	①朝の礼拝の静粛を保つ ②教職員・生徒もお祈り・司式・奏楽ができるように ③参加しやすい、また少しでも喜びのある行事にする	①○ ②○ ③○	①おおむねできている ②コロナ禍で多くの行事も中止となった中で、礼拝で生徒が担当する役割を増やした学院の諸礼拝等でも生徒が活躍した ③新年礼拝や卒業生成人礼拝等でも積極的参加があった
2. 授業をたいせつにする	①ベル着の徹底 ②自習課題と振り替え授業の充実 ③授業見学の発展	①ベル着の徹底 ②自習課題と振り替え授業の充実 ③授業見学の発展	①相互で確認 ②連絡方法の再検討 ③担当教員の打合せの充実	①○ ②○ ③△	③秋の授業見学週間が実施できなかった
3. 生活習慣の確立	①自主規律の確立 ②挨拶の励行 ③遅刻防止 ④提出物の徹底 ⑤インターネット上のトラブル防止 ⑥携帯電話の使用マナーの徹底	①自主規律HRの活用 ②自治会指導部との連携 ③遅刻管理システムの活用 ④提出状況を通して、学力の向上や信頼関係の構築につなげる ⑤ネットリテラシーを学ばせ人の気持ちを考えるよう指導 ⑥使い方を指導し、マナーの会得や学習時間を確保させる いずれの項目とも特別生活指導週間、始業式終業式などでの呼びかけ	①実施内容のレビューとワークシートのフィードバック ②生徒教職員への意識付け ③昨年度数値 ④反省文の回収 ⑤⑥問題件数の減少	①△ ②○ ③○ ④○ ⑤○ ⑥△	①自治会指導部主導であった ⑥年々改善しつつはある
4. 活発な自治会活動の推進	①自主規律の確立 ②自治活動の活性化 ③学校行事の発展・教員の役割分担	①自主規律HRの年間計画作成 ②HR委員会、評議委員会、文体連の役割分担、実務遂行への指導 その他自主活動の活性化 ③文化祭委員会の活動計画への指導各行事の目標を明確化 事前からの教員業務分担を実施	①執行部、各委員会活動の年間計画作成 ②活動目標、年間計画、総括 ③各行事の実行委員の獲得と意識化・役割の明確化	①△ ②△ ③○	①②今年度の自治会活動もコロナの影響を大きく受け、行事の延期や中止を余儀なくされ、年間を通しての計画作成に苦労した ③様々な制限の中ではあったが、特に文化祭では多くの生徒が高い意識を持って、積極的に活動できた
5. 進路について	大学進学に関する情報収集力と、最後まで諦めない精神力の育成	①進路HRにおける生徒自身による取り組み ②進路指導室のオリエンテーションを全クラス実施 ③希望制模試の受験案内	①短期と長期の年間受験計画を生徒各自が立てる ②生徒が利用しやすい環境づくり ③小論文模試や資格試験等を受けることで各自の個別スキルアップ	①○ ②○ ③○	①各学年創意工夫しているが、それを学校全体で共有する必要がある ②4月に実施しても、実際に活用する時期はもっと後なので、時期の見直しを検討したい ③今後は模試の事前事後指導に力を入れていきたい
6. 中学の課題	①大学進学を見据えた学力向上 ②生きる力をはぐくむ行事の精選・発展 ③受験生の増加 ④生徒支援システムの構築	①授業力の強化と放課後の取り組みの充実引き続き取り組む ②行事の見直しを継続し、一定の形をつくる ③広報活動の充実・特待生制度の発展と志願者数・上位層の確保・帰国子女入試の完成 ④生徒支援課との連携強化	①アンケートや学力推移テスト ②行事検討会議の充実 ③受験生の増加 ④システムがいかに構築されたか	①○ ②△ ③○ ④△	①放課後の取り組みには取り組めたが学力推移テストの結果は教科によるが英語力の伸びは期待できる ②行事の見直しはコロナ禍で完成できていないので次年度も継続する ③昨年ほどではなかったが、今年も志願者を多く確保できた ④人数が多いので組織的な体制を強化する必要がある
7. 入試広報の充実	建学の精神を広く広報する	国立合格者数、一貫コースの大学合格実績のアピールを行う	大阪北部、隣接する尼崎・西宮地域への広報を拡充する 受験者数、入学人数を適正クラス数にする	○	コロナの影響で今年度も外部説明会、校内説明会共に入場制限の中で実施せざるを得なかったが、校内説明会においては、2部制にするなど来場者数確保に努めた
8. いのちの教育の推進	いのちについて知識を深める	いのちに関連させたプログラムを実行する	年末の学校評価アンケートでのフィードバックを目安とする	△	コロナの影響で実施できなかった行事もあった
9. キャンパスの整備	①キャンパスの整備につとめる	①自習スペースのさらなる充実 ②F館の老朽化に伴う中長期的計画 ③その他施設の充実	①教員の評価 ②生徒保護者の満足度など	△	①②については予算の問題もあり、中高だけでは難しい ③についてF館のトイレなど取り組むことができた

Ⅳ各学年別目標(中学職会・担任会)	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
中学1年	①基本的な生活習慣の確立 ②学年全体の学力向上 ③問題行動へのチームでの対応	①遅刻・欠席をする者に対する声かけをし、規則正しい生活を身につけさせる欠席が続く生徒には早い段階で電話連絡・家庭訪問をする ②中上位生徒はより意欲を持って自主的な学習に取り組ませる学力不振の生徒は、提出物の徹底、基本・基礎事項の徹底を行う ③問題行動に対し、担任だけ、教科担当だけで対応するのではなく、学年としてチームで対応する	① 怠業による遅刻数・欠席日数を例年より減少させる ② 課題提出率の向上と模擬試験の成績向上 ③ 大小関わらず、それぞれのケースに対する実際の対応	①○ ②△ ③○	①コロナ関係を除けば、ある程度は評価できる結果であった ②成績上位層をより一層増やしたかった課題提出は、下位層ができず、コロナ禍の影響もありあまり居残りもさせられず向上はできなかった ③保護者への連絡を密にするなど対応できた
中学2年	①生活習慣の確立 ②学年全体の学力向上	①遅刻・欠席を減らし、規則正しい生活を身につけさせる ②中上位生徒はより意欲を持って自主的な学習に取り組ませる学力不振の生徒は、提出物の徹底、基本・基礎事項の徹底	①遅刻数・欠席日数の減少 ②模擬試験、定期考査での成績向上	①△ ②△	①不登校生徒が多く、不登校でなくとも問題を抱えた生徒の遅刻欠席が多かったため、減少させることはできなかった ②中上位生徒の意欲向上はできたが、学力不振の生徒の宿題提出率向上はできず、昨年と同様であった
中学3年	①学習習慣の確立 ②進路選択に向けた意識作り	①提出物、定期試験前後の取り組み、模試 ②大学見学、先輩による講演会等	①日々の提出物や定期試験前後の取り組みを確立することにより、自学自習ができる生徒を育て、それが結果につながるという成功体験をさせる ②夏の勉強会宿時の大学訪問、学部学科調べを通じ、自分の夢をできる限り明確な形にする。	①△ ②△	①ある程度は評価できる結果であった ②コロナの影響で勉強会宿は実施できなかったが、学部学科調べを通じて自分の夢を明確化できた
高校1年	①学習習慣の確立 ②生活習慣の確立 ③HR活動、探究的・総合的学習、生徒支援の充実	①学習に対する積極的な姿勢・学ぶ意欲を育み、生徒の夢や目標の達成に向けて学年全体で取り組む授業やHR・面談等において、適切な学習方法・内容・量について一年間継続的に指導する ②自ら責任を持って時間管理ができるようにさせる朝礼遅刻を含む遅刻の指導を丁寧に行い、下校時刻も守らせるタブレット・スマホ・携帯の適切な扱い方を習得させる指導を強化する ③進路目標の実現に必要な情報の積極的な発信生徒が自らの考えを深め、課題の解決に努めることができるように指導する生徒の心身の健康状態に留意し、一人一人の生徒に必要なサポート・支援計画を検討し、教員団で共有した上で、生徒支援を行う	①模試成績の向上 ②朝礼遅刻を含む遅刻数を減少させるとともに、適切なスマホ・携帯の扱い方を習得させる ③内容の充実を図る	①○ ②○ ③○	①学習習慣の確立と基礎学力の定着を重視し、指導した生徒の進路実現のため、次年度には更なる学力の向上を目指したい ②朝礼遅刻の減少に向けて、より指導を強化したいタブレット・スマホの扱い方については継続的に指導を行ったが、適切な使用については課題も残る ③HR、探究的な学習については、継続して積極的に取り組んでいきたい生徒支援については、現状の課題を踏まえ、充実を図りたい
高校2年	①学力の向上 ②生活習慣の確立 ③HR活動の充実	①それぞれの進路目標の実現に必要な学力をつけさせる ②自ら責任を持って時間管理ができるようにさせる朝礼遅刻を含む遅刻の指導を丁寧に行い、下校時刻も守らせるスマホ・携帯の適切な扱い方を習得させる指導を強化する ③HRでの議論をより活発化し、生徒が自らの考えを深めたり、課題の解決に努めることができるように指導するまた、学校行事の中心として主体的に活動する姿勢を学ばせる	①模試成績の向上 ②朝礼遅刻を含む遅刻数を減少させるとともに、適切なスマホ・携帯の扱い方を習得させる ③内容をより充実させ、より多くのものを生徒に得させたい	①◎ ②○ ③◎	①コース・科目にもよるが模試成績の向上が見られ、意欲的な学習態度も醸成できた ②生活指導上の問題は少なく、安定した学校生活を送らせることができた一方で補導案件は0にはならず服装身だしなみにおいても継続した指導が必要である ③各種行事が中止・縮小・延期される中、限られた制約の中で工夫して活動したなかでも進路HRにおいては学年をあげて大学調べに取り組む、進路への意識を高めることができた
高校3年	①進路目標の実現 ②生活習慣の確立 ③HR活動の充実	①それぞれの進路目標の実現に必要な学力をつけ、生徒の目標達成に向けて学年全体で取り組む ②自ら責任を持って時間管理ができるようにさせる朝礼遅刻を含む遅刻の指導を丁寧に行い、下校時刻も守らせるスマホ・携帯の適切な扱い方を習得させる指導を強化する生活習慣の維持に努め①の目標達成に繋げる ③進路目標の実現に必要な情報の積極的な発信生徒が自らの考えを深め、課題の解決に努めることができるように指導する	①③生徒の第一志望合格 ②朝礼遅刻を含む遅刻数を減少させるとともに、適切なスマホの扱い方を習得させる	①◎ ②○ ③◎	①入試に向けた学習は講習等に積極的に参加し、学力向上に向けて生徒教員が丸となって取り組めた ②コロナの影響でコロナ不安のため欠席や遅刻をする生徒が多かった(記録上は出席停止扱い)が、学年全体としては生活習慣の維持に努めることができたと思う ③第一志望合格に向けて私立大、国公立大とも後期まで粘って受験をした

V. 各コース目標(コース会議)	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
一貫コース進学	大学合格実績の向上	六年一貫指導計画のさらなる充実、改訂	模擬試験の結果最終的な大学合格実績	△	推薦での国公立大学の合格を4名出すことができた一般では合格が厳しい生徒の合格なので一貫らしさが出せたと感じる一方で産近甲龍レベル以上の大学への合格は3割程度なので苦戦する生徒が多くみられた
一貫コース選抜	大学合格実績の向上	六年一貫指導計画のさらなる充実、改訂	模擬試験の結果最終的な大学合格実績	○	大阪公立大学(医・医)の合格、私立医科大学の合格を5校出すことができた国公立大学の合格数は前年と比べると少なかった
文理コース文理	①国公立大学、難関私立大学の進学実績向上 ②入試に活用できる英語検定試験の学力アップ ③クラブ活動への積極的参加	①普段の授業、模試の活用等 ②普段の授業、朝学習等 ③各クラブ顧問と担任との連携等	①国公立25% 難関私立大50% (文理全体に対する延べ人数合格率) ②英検2級以上の取得率の上昇 ③年度初めと年度末のクラブ加入率の差	①△ ②△ ③△	新型コロナウイルスの影響により文理コースが多く進学する地方国公立への志望が低下したように思われるそれに加えて共通テスト難化の影響を強く受けてしまい、前期終了時点で国公立10%、難関私立45%という結果に留まっていた来年度はS選抜コースが新たに設置されるので、文理コースとしての目指すべき数値目標も再考する必要がある
文理コースアスリート	①5クラブの全国大会出場ならびに上位進出 ②日本代表またはそれに準ずる選手の輩出	強化合宿、遠征の充実、練習環境の整備	①大会結果 ・近畿大会(出場・入賞) ・全国大会(出場・入賞) ②代表選考結果	①△ ②○	①水泳部:IHでの総合5位 その他個人での全国大会入賞多数 各クラブ:コロナによる大会中止の影響有 ②杉岡尚樹(ハンドボール部)東京五輪出場 西田玲雄(水泳部)東京五輪出場 西岡隆成(トランポリン)国際大会での入賞 伊藤太一(ハンドボール部) U19日本代表チームの活動に参加
英数コース	国公立大学を含む、第一志望大学への合格	【高1・2】伝統ある校風を守りつつ、高い志望への進路の意識付け 【高3】大学入学共通テスト対策&国公立二次対策指導	【高1・2】模擬試験の結果 【高3】①大学入学共通テスト結果 ②第一志望大学への合格率	①○ ②○	①共通テストは全国的に得点が低くなり、出願指導なども難しい状況となった ②新設の大阪公立大学など、志望大学への合格が多く見られた
S英数コース	難関国公立大学を含む、第一志望大学への合格	【高1・2】伝統ある校風を守りつつ、より高い志望への進路の意識付け 【高3】大学入学共通テスト対策&難関国公立二次対策指導	【高1・2】模擬試験の結果 【高3】①大学入学共通テスト結果 ②第一志望大学への合格率	①○ ②○	①共通テストは全国的に得点が低くなり、出願指導なども難しい状況となった ②東大、京大、阪大だけでなく、医学部や薬学部など志望学部への合格が多く見られた
国際コースクラスA	①国際社会で通用する英語	①留学の事前・事後指導の充実 ②英検の全員受験 ③高2における留学事前教育カリキュラムの導入や高3の外部講師を招聘した特別カリキュラムの実施	①外部テスト(英検・GTEC) ②受験後の生徒へのアンケートと英語教科内での評価 ③受講後の生徒へのアンケート	①○ ②△ ③○	①高1の夏の補習期間中に留学に向けてのガイダンスやアウトプット活動を取り入れることができた ②高1の第2回の実用英語技能検定において、準1級の合格者がでて、2級の合格率も高校生の平均を上回ったが、独自の評価基準の確立はできなかった来年度は、英検のCan-doリストなどを参考にしながら、国際コース独自の評価基準を策定したい ③高校3年生の「AO入試を意識した英語プレゼンテーション基礎講座」(希望制)や高2クラスAで「オンラインワークショップ」を行って成果を得た
国際コースクラスB	①国際社会で通用する英語	①留学の事前・事後指導の充実 ②英検の全員受験 ③高2における留学事前教育カリキュラムの導入や高3の外部講師を招聘した特別カリキュラムの実施	①外部テスト(英検・GTEC) ②受験後の生徒へのアンケートと英語教科内での評価 ③受講後の生徒へのアンケート	①○ ②△ ③○	①高1の夏の補習期間中に留学に向けてのガイダンスやアウトプット活動を取り入れることができたまた③で記述した高2クラスAで「オンラインワークショップ」は、留学の事前・事後指導としても機能した ②高1の第2回の実用英語技能検定において、準1級の合格者がでて、2級の合格率も高校生の平均を上回ったが、独自の評価基準の確立はできなかった来年度は、英検のCan-doリストなどを参考にしながら、国際コース独自の評価基準を策定したい ③高校3年生の「AO入試を意識した英語プレゼンテーション基礎講座」(希望制)を行って成果を得た

Ⅵ. 各部の目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
教務部	①キャンパスプランの安定した運用 ②新指導要領への準備	①ICT委員会等と連携し安定した運用を目指す ②高等学校観点別評価の指針作成	①成績処理および高3調査書の発行 ②2学期中に高等学校観点別評価の指針を作成する	①△ ②○	①マニュアル等の作成により、かなり安定してきたがまだまだ十分とは言えない
生活指導部	①自主規律の確立 ②挨拶の励行 ③遅刻防止	①自主規律HRの活用 ②自治会指導部との連携 ③朝礼遅刻を含む遅刻指導 ①②③とも特別生活指導週間、始業式終業式などでの呼びかけ	①実施内容のレビューとワークシートのフィードバック ②生徒教職員への意識付け ③朝礼遅刻数減少	①△ ②○ ③○	①自治会指導部主導であった
自治会指導部	①自主規律の確立 ②自治活動の活性化 ③学校行事の発展・教員の役割分担 ④コロナウィルスの影響による学校行事の形態変更や内容変更の検討	①自主規律HRの年間計画作成 ②HR委員会、評議委員会、文体連の役割分担、実務遂行への指導 その他自主活動の活性化 ③文化祭委員会の活動計画への指導各行事の目標を明確化 事前からの教員業務分担を実施	①執行部、各委員会活動の年間計画作成 ②活動目標、年間計画、総括 ③各行事の実行委員の獲得と意識化・役割の明確化	①△ ②△ ③○	①②今年度の自治会活動もコロナの影響を大きく受け、行事の延期や中止を余儀なくされ、年間を通しての計画作成に苦労した ③様々な制限の中ではあったが、特に文化祭では多くの生徒が高い意識を持って、積極的に活動できた
進路指導部	①生徒・教員への進路情報の適切な提供 ②進路指導室の有効活用 ③生徒自身による受験計画の立案	①進路関係の情報を整理して適切に配布・配信 ②担任による進路面談利用や高3全クラス進路指導室オリエンテーションを実施 ③進路HRで自身の目標大学設定や、その為に何をすべきかを考えさせる	①データ化を推進して分類・保存 ②できるだけ多くの教員・生徒が進路指導室を利用しやすい環境整備 ③受験計画書の作成	①○ ②○ ③○	①作業量が膨大で、これがどのくらい活用されているのかが分からない ②頻繁に利用されていた赤本書庫に関してはまだ認知度が低い ③特定の大学に行きたいのか、学問として学びたいものがあるのか、とでは受験を最後まで諦めないという姿勢に差が出てきてしまう

Ⅶ. 各委員会の目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
国際教育委員会	①コロナウィルスの影響による留学内容の変更等に対応(国際コース) ②コース独自の取り組み(国際コース) ③米国への生徒派遣(EP) ④渡米留学希望生徒の一定数確保(EP) ⑤入学内定試験の実施(中国人留学生) ⑥活動の継続、新たな目標の模索(SBS)	①コロナウィルスの影響による留学内容の変更等に対応(国際コース) ②コース独自の取り組み(国際コース) ③米国への生徒派遣(EP) ④渡米留学希望生徒の一定数確保(EP) ⑤入学内定試験の実施(中国人留学生) ⑥活動の継続、新たな目標の模索(SBS)	①カナダから変更しての行き先を決定 ②平常授業に特色のある取り組みを取り入れる ③4月現在決定していない派遣生徒を見つけて、派遣へとつなげる ④10名前後 ⑤夏休み終わりまでには国内外いずれかで実施 ⑥オンラインのイベントに参加	①○ ②○ ③× ④△ ⑤× ⑥△	①ハワイへ行き先変更して実施できた 次年度はカナダへ赴く予定だが、価格の高騰が課題 ②授業へ組み入れるプログラムを実施した教員の負担、生徒の実費負担の軽減を模索しながら、次年度は高1で実施 ③2021年度の派遣は行われなかった ④応募者は4名(後1名辞退)、選考という形は取れたが、もう少し応募者を募りたい ⑤中国との往来で隔離期間が課されるため、大阪・上海いずれの実施も困難と判断入試問題を業者へ預けることも、リスクを考慮して行わなかった ⑥海外というよりも国内の貧困層のための取り組みを模索している
ICT委員会	快適なIT環境の整備 ICT教育の推進	①ネットワーク・IT機器の保守 ②キャンパスプランの運用 ③タブレット活用法に関する研究	①無線LAN環境、BYODを含め、適切な保守を行うAPの追加も行いたい ②キャンパスプランの運用方法の把握・模索を行う ③タブレット導入に伴い、活用方法の研究等を行う	①△ ②○ ③△	①IPアドレスの追加を行ったが、APの追加については次年度以降に持ち越し ②運用方法に関して把握できてきた ③各自の研究等にとどまり、情報共有の場を設けられなかった
入試広報委員会	建学の精神を中心にした広報活動に努める	大阪北部、隣接する尼崎・西宮地域への広報活動	説明会などの広報活動において入試広報委員中心に全教員が協力する	○	尼崎・西宮地域における認知度を少しずつではあるが高めつつある
いのちの教育委員会	①保健指導に関して生徒による保健活動を活発にする ②いのちの教育に関して「いのち」の尊さや厳かに触れ、またその神秘を体験的に感じる機会をつくる	①行事での救護活動・保護犬活動・各種ポスター作成活動 ②AED講習・いのちの日・響プロジェクト・ボランティア活動・中3カフェテリアの取り組み	生徒保健委員会の実施内容・行事ごとの救護係等 ・保護犬活動 ・熱中症/感染症ポスター作成(中)	①○ ②○	①自分たちでできることをしっかり考えいろいろな行事を企画・実施することができた ②全体で集まっていた行事が1年間通してできなかったがいろいろな方法で実施した
人権教育委員会	人権教育に関して社会に存在する様々な人権問題に関心を持ち、理解を深める	人権HRの年2回以上実施	各学年での人権教育の生徒からの感想文、教員からのフィードバック	○	オンラインでの外部講師による講演会や、人権感想文に代わる宗教人権エッセイなど新たな試みができた
宗教教育委員会	宗教教育に関して礼拝や祈り、各種行事を通して自他の尊厳を大切にすることを養う	礼拝・行事でのマナー向上	○全校的な理解と協力を得ること ○多岐に亘らず丁寧に行うこと	○	中学映画鑑賞会・高校宗教講演会等で「ハンセン病」について深く学ぶことができた礼拝する姿勢は年々よくなっている

Ⅷ. その他委員会の目標(1)	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
生活指導部(生徒支援)	支援制度の確立・全教員への理解と認識の強化	①生徒支援理解を目指した積極的な事例研究や研修・情報共有 ②合理的配慮の実施と目標達成に向けた指導 ③自宅学習支援生徒への指導・対応	支援制度や合理的配慮に対する理解・認知 各支援生徒の目標達成具合	①○ ②○ ③○	①生徒相談会での事例のストックを活かせるようになってきた ②環境配慮等の実施が充実してきた ③進学実績も出てきて、大学までつなげることができるようになってきた
危機管理委員会	①全構成員の危機管理意識の強化 ②防災訓練等のさらなる発展	①不審者一時対応の発展 ②避難訓練の発展	①②訓練が充実したものになったか	①× ②△	移動を伴う避難訓練は実施できなかったが、ビデオ教材を利用し、地震発生の際に起こる現象についての理解は深めることができた
修学旅行委員会	①一貫コースイギリス修学旅行の代替地の確認 ②石垣島修学旅行の代替地	①②との委員会で検討し、業者に依頼	2021年度の修学旅行についても新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、慎重に判断したい	△	新型コロナウイルス感染症の影響で困難な状況であったが、①の一貫コースは沖縄石垣島・九州方面で3月に実施することができた高校入学生の新北海道は予定通り7月に、沖縄については3月に延期実施することができたしかし、高3のアスリートクラスの2月実施の修学旅行が実施できなかったのは残念であった
カリキュラム委員会	新カリキュラムについて理解を深める	教科中心にスムーズな移行を目指す	教科会議での意見交換等	○	2022年度より新課程開始
アスリート委員会	①5クラブの全国大会出場ならびに上位進出 ②日本代表またはそれに準ずる選手の輩出	強化合宿、遠征の充実、練習環境の整備、選考会への派遣	①大会結果 ・近畿大会(出場・入賞) ・全国大会(出場・入賞) ②代表選考結果	①△ ②○	①水泳部:IHでの総合5位 その他個人での全国大会入賞多数 各クラブ:コロナによる大会中止の影響有 ②杉岡尚樹(ハンドボール部)東京五輪出場 西田玲雄(水泳部)東京五輪出場 西岡隆成(トランポリン)国際大会での入賞 伊藤太一(ハンドボール部) U19日本代表チームの活動に参加
予算委員会	①経費削減にさらに努める ②予算の適正配分と適正執行	予算委員会での議論を深める	委員会での振り返りをていねいにおこなう	○	学院からの5%削減の要望に応えることができてよかった
入試委員会		高校入試ガイドラインの見直し	1学期中に結論をだす	○	今後も継続的に検討
補導調整委員会	①補導案件の未然防止 ②適正な補導措置の実施	①日常および特別生活指導週間、始業式終業式などでの呼びかけ ②生徒の事情、学年間・案件による差異の出ないよう慎重な議論	①補導案件の減少 ②措置生徒の更正	①○ ②○	今後はより迅速に対応できるよう、電子媒体の活用なども考える
M1会議	桃山学院中高の将来像を考える	定期考査ごとに会議を設定し、進路実績の観点から、また校風の観点から、保護者や生徒のニーズという観点から本校の在り方を考える	2021年には京都大学合格者数を安定させる新クラスの設置に向けて意思統一を図りたい	○	今年度は1回の実施に終わったが、職員会議に新コースの提案をすることができた否決される結果とはなったが、後日、修正された案を職員会議で認めてもらう事となった今後の将来を考えると点ではある一定の役割を果たせたと考えている

Ⅸ. 各教科の目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
国語科	教科指導力の向上	①指導法・情報・資料の共有 ②漢字検定 ③小論文模試・小論文講座 ④ICT活用も含めた新たな授業展開の共有	①新課程・新入試への対応教員間の情報共有による安定した教育環境を整える②小論文を教科を越えての学校としての取り組みにしてい	△	①も②も模索をしながら進めている状況各教員の工夫や努力に留まることなく、学年を越えて共有できる体制を作っていけるようにする必要がある現段階では、学年内での共有・協力を強化中
地歴公民科	生徒の学力実態・目標に応じた指導力の向上	①新過程・入試改革への対応検討 ②デジタル教材・データの蓄積・共有 ③教科指導力向上	①今後の入試制度・新過程に応じた授業内容の充実 ②電子黒板で活用できる教材の蓄積・入試問題データベースの整備 ③研修・セミナー等への参加促進、授業事例の共有	○	①新カリキュラムでは、理系地理の時間数確保に問題が残った ②教科内で情報を共有しており、今後も整備・拡充を図る予定である ③外部研修等の案内を共有している
数学科	教科指導力の向上	①大学入試共通テストへの対応 ②ICTを用いた授業、指導法の研究と充実を図る ③数学オリンピック、数学甲子園への指導 ④教員同士による指導法の研究会	①研究会への参加と情報の共有、共通テストの結果 ②ICT教材・教案の蓄積、情報交換 ③数学オリンピック、数学甲子園での予選成績の結果 ④授業へつなげることができたか	△	①②④様々なことに、学年ごとに取り組んでいる状態で、数学科全体としての取り組みはできていなかった ③数学オリンピックは安定して挑戦する者があり、今年度は予選突破はならずも成績優秀者が出た
理科	生徒の学力・表現力の向上を目標とした指導力の向上 ICT機器の授業への活用	①各種自然科学系オリンピックへの対応 ②新課程・入試改革への対応検討 ③高3講習を全員で担当 ④ICT機器を用いた授業を研究する	①各種自然科学系オリンピックでの結果 ②カリキュラムの検討 ③共通テストの結果 ④授業見学や、そのあとの反省会の充実	△	①科学系オリンピックは参加者なしでした授業見学も十分にできなかった一年でした④授業見学会は活発にすることができなかった運営方法なども含め、見直したい
英語科	「大学進学実績の向上」へ向けた教科指導力の確立	・「大学進学実績向上」という本校の最重要目標達成を踏まえた目標合わせ・指導法の共有・研究・英語4技能検定試験(対策・検討など)・変動する大学入試への対応	①「大学進学実績向上」という目標の達成へ向けた目標合わせができていくか ②学校が掲げる目標達成に向けた授業・取り組み面におけるチャレンジが各所でできているか ③大学入試の情報共有・対応	○	大学入試に対して、基礎学力を養成することで一定の対応ができていたコロナ禍のため校外でのプログラムの多くが実施不可能であることが課題である
保健体育科	教科指導力の向上	授業見学の強化	実技力がしっかりと身についているか	△	コロナの関係で授業に制限がかかっていたがいろんな代替え案で対応した
芸術科	授業力の向上	授業見学、情報共有の強化 タブレット機器の活用を含むコロナ対策の検討	実技力がしっかりと身につく、作品・演奏の質が高まっているか芸術に親しむ心を養えているか	△	コロナの影響で実施内容に制限があった見学があまり積極的に行えなかったタブレットの活用は少しずつ取り組んでいる
情報科 技術科	①授業力の向上 ②授業内容の改善・充実	①授業見学の強化 ②教材の改善・打合せの充実	①実技の指導力が高まっているか ②綿密な打合せの場が確保されているか	①○ ②○	新カリキュラムを想定して、プログラミングの実習に力を入れることができたChatやクラウドサービスを積極的に活用することで、同じ場に居なくても打ち合わせを進めることができた
家庭科	①授業力の向上 ②授業内容の改善・充実	①授業力の向上 ②授業内容の改善・充実	①実技の指導力が高まっているか ②綿密な打合せの場が確保されているか	①○ ②○	コロナの影響により調理実習は実施できていない
宗教科	①学年毎のシラバスの継続性 ②授業内容の充実と授業力の向上 ③学院方針アイデンティティ教育の実施	①教科会議で打ち合わせを密に ②高1の総合(アンデレタイムⅠ)で1～2コマ程度行う ③道徳の教科化への対応	他校事例などの情報収集や教科会議での振り返り教務部との調整	①△ ②○ ③○	①主任以外全員非常勤のため一堂に会しての会合はできないが個別に連絡を取り合った ③対応したシラバスにしている

Ⅹ. その他	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
職員会議	①会議の円滑化・時間短縮 ②活発な意見交換、発言の機会の充実	①議題の整理 ②議事・報告事項の事前共有などの工夫	①審議事項において活発な議論がなされているか ②必要な情報共有はなされているか ③時間は守られているか	○	google MEETを利用した開催となっている移動なく参加できる事で利点もあるが、他の業務をしながらの参加もできるという点で集中力にかけると欠点もあるうまく長所、短所を考えながら使い分けが必要となるだろう
運営委員会	①会議の円滑化・時間短縮 ②現場の状況を把握し共有する	①議題の整理 ②議事・報告事項の事前共有などの工夫	①審議事項において活発な議論がなされているか ②必要な情報共有はなされているか ③時間は守られているか	○	①②③いずれの項目においても適切な形で実施できたと考える
M1プロジェクト	各学年の模試などの学力推移の情報共有	①模擬試験の結果が出次第実施し、コース別、教科別で得意分野、苦手分野を把握 ②苦手分野の克服に関して情報交換	苦手分野を克服し、学力向上につなげたかどうかを模擬試験ごとに検証する	△	①に関しては新型コロナウイルス感染拡大のため実施できなかった ②に関して実行できた
判定会議	①会議の円滑化・時間短縮 ②活発な意見交換、発言の機会の充実	①議題の整理 ②議事・報告事項の事前共有などの工夫	①審議事項において活発な議論がなされているか ②必要な情報共有はなされているか ③時間は守られているか		判定会議Ⅰについて報告のみで特段問題点は見当たらない。 判定会議Ⅱについては様々な意見が出された。来年度に向けて整理したい。
事務室	①業務改善および計画通りの会計業務運営 ②施設・設備保全計画の立案 ③効果的な生徒募集広報の実行	①業務進行の可視化と業務内容の見直し ②校内全体の施設改修計画と合わせて、A館外壁改修の施工時期等の調整中期保全計画の立案 ③効果的な広報戦略を立案・実行、中高ともに志願者増、予算定員の確保	①一人当たりの平均残業時間、対コロナ発症前年度(2019年度)比マイナス10% ②計画通りの実行及び、突発的な施設設備改修については、予算と優先順位を考慮しての実行 ③予算定員の確保	①○ ②○ ③○	①全体では達成業務内容によってはコロナ禍のため変則業務となり若干増 ②施設改修については、時間を要する案件もあったと思うが、概ね、目標通りの実施突発的な改修(F館トイレ改修)は、夏期休暇期間での適切な調整により施工実施 ③定員充足
保健室	①感染症対策 ②外科対応における情報共有の徹底 ③自尊心の向上	①生徒自ら予防対策が実践できるよう指導するまた行事における対策の徹底 ②校内、保護者との連絡共有 ③保健委員会活動の充実	校内感染が抑制できたか 情報共有に不備がなかったか 委員会活動は充実していたか	①○ ②○ ③×	①感染症対策に共通認識を持って取り組み、校内感染がある程度抑制できた ②情報共有ができた ③行事における保健委員の活躍の場を設けることができなかった
図書館	①感染症対策 ②図書館利用と読書の推進 ③図書館登校生徒への対応の充実 ④将来の蔵書管理PC更新計画	①安全に図書館利用をしてもらえるように、大阪高校図書館研究会所属他館との情報共有もしつつ、コロナ対応の工夫を続ける ②生徒による進路(大学・職業等)探究に資する蔵書の充実をはかる小論文入試対策や、大学入試改革を意識した選書や広報を引き続き行う ③図書館登校生徒に適切なケアを行い、必要な情報をスタッフと共有する ④将来の図書館蔵書管理PCのあり方を検討する	①生徒に安全に利用してもらえたか ②過去データとの比較 ③生徒の思いを大切にしつつ、精神的な安定と、教室復帰を目標とする ④蔵書データ等のクラウド保管の可能性や生徒が使用している端末との連携等の可能性などを研究する	○	コロナ蔓延の影響で、昨年度より引き続いて、座席利用を減らし消毒を行うなどの特殊な対応を行った図書館や図書館の資料を利用した授業が複数実施された
同窓会	中・高教員の会費徴収率の向上	該当教員にたいする声かけ	「桃溪」配布時に実施	△	特に活発な活動はなかった
PTA	コロナに対応した安全な活動を心がける	PTA活動の準備内容等の情報を担当教員、職員、PTA役員保護者などで共有する特に、ネット掲示板を活用してPTA活動の情報を教職員全員で共有するコロナが蔓延する状況下における活動の在り方を保護者役員の皆様と共に検討する	PTA担当教職員、保護者役員の皆様による振り返り	○	昨年度に続き、コロナ蔓延の影響で僅かな取り組みを除いて多くの活動を縮小した保護者の皆様のご協力に心より感謝を申し上げます